

Title	リアルオプションを用いた事業戦略の意思決定マトリックスの構築 - 製品開発段階における動的な意思決定への対応 -
Sub Title	
Author	真下, 貴史(Yahagi, Tsuneo) 矢作, 恒雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2005
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2005年度経営学 第2084号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002005-2084

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	矢作 研究会	学籍番号	80430860	氏名	真下 貴史
(論文題名)					
『リアルオプションを用いた事業戦略の意思決定マトリックスの構築』					
－製品開発段階における動的な意思決定への対応－					
(内容の要旨)					
<p>本研究の目的は、リアルオプション法を用いた戦略における動的な意思決定支援ツールの開発である。</p> <p>近年の戦略的意思決定支援ツールはポジショニング理論を代表とした静的なツールに留まっている。またNPV法という将来時点の意思決定を現在で決定するというプロジェクトの価値評価方法により、プロジェクト価値が過少に見積もられ、第二種の過誤が発生する恐れが多いと考えられる。そこで本研究ではリアルオプションを用いることにより、より動的に戦略的意思決定を支援しプロジェクト価値を評価することを試みた。</p> <p>本研究で提案する意思決定マトリックスは、縦軸に技術力、横軸に支援力をとり、それらの大小に応じてその時点での最適な意思決定を導くものである。またリアルオプションを導入することにより、待つことの価値を与え、ある時点では待ち、状況が変われば他の行動にでるなど、より動的な意思決定を支援することができる。</p> <p>本研究ではリアルオプションの計算方法の一つであるブラック・ショールズ・モデルを用い、製品開発段階における各意思決定項目を定式化し、数値実験を通じ、意思決定マトリックスを構築した。</p> <p>さらに、NPV法と比較することにより、NPV法では不採算とされるプロジェクトでも、本研究が提案するマトリックスでは採算プロジェクト、または待機プロジェクトと評価されるケースが多いことを示すことができた。これにより、従来法が生み出してきていたと考えられる第二種の過誤の発生を抑えることのできる意思決定支援ツールの開発をすることができたと考ええる。</p> <p>しかしながら本研究では、用いたリアルオプションの種類が待機オプションと成長オプションの二つしかなく、あくまで製品開発段階のみを主眼においたモデルとなっているため網羅性、汎用性に乏しい。また複合オプションや競争環境までは意識をしていない。今後この研究を深めるにあたり、以上の課題へのアプローチが求められるであろう。</p>					